



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

11月号—No.306

2020.10.25

(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【密陀僧(みつだそう)】一酸化鉛を原料とした黄色い顔料の色。

古代の壁画などでよくみられる黄色がこれ。日本では正倉院の宝物にも玉虫厨子をはじめとしてこの顔料を用いた密陀絵がたくさん残されている。密陀僧という奇妙な名前は、死んだ石を意味するペルシャ語「murda sang」の中国語を音訳したのが由来とされる。原料の型の違いにより赤みの強いものを金密陀、黄色いものを銀密陀と呼ぶ。

●目次 / contents

今月のニュース..... 2

令和3(2021)年度「公共ホール現代ダンス活性化事業」全体研修会

財団からのお知らせ..... 4

令和3(2021)年度「地域創造セミナー事業」実施団体募集 / 地域創造ホームページ「特別寄稿 ビューポイント viewpoint」スタート / 「地域文化資産ポータル」リニューアルのお知らせ / 令和3(2021)・4(2022)年度「美術館出前(オーダーメイド)型ゼミ」開催地募集のお知らせ / 新型コロナウイルス感染症に係る支援策情報提供のお願い

今月の情報..... 6

地域通信 / アーツセンター情報

今月のレポート..... 12

横浜市「ヨコハマトリエンナーレ2020」

ダン活で初めてのオンライン研修会を開催

令和3(2021)年度
公共ホール現代
ダンス活性化事業
全体研修会

2020年10月5日～7日

写真1: 登録アーティストプレゼンテーションの様子(藤田善宏)

2: 登録アーティストプレゼンテーション(長井江里奈)リモート画面(写真左上が長井さん)

3: セッション③「フィードバック」の様子

4: セッション④「プログラム別ディスカッション」(Aプログラム)リモート画面

●公共ホール現代ダンス活性化事業
地域創造から登録アーティストとコーディネーターを地域に派遣。基本的に3年継続を前提とし、アウトリーチ、公募ワークショップを実施するAプログラム(地域交流プログラム)、Bプログラム(市民参加作品創作プログラム)、Cプログラム(公演プログラム)の3つを1年に1プログラムずつ行う(順番は自由)。実施前年度に研修会とアーティスト選びの参考となる公開プレゼンテーションを行う。

◎問い合わせ
芸術環境部 栗林・青井・畑
Tel. 03-5573-4055・4077



登録アーティストプレゼンテーションの様子(康本雅子)



「公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)」では、例年「地域創造フェスティバル」(7月下旬開催)の会期中に、来年度の参加団体に向けた全体研修会と登録アーティストによる公開プレゼンテーションを同時開催してきました。しかし、今年度は東京オリンピック・パラリンピック競技大会が予定されていたため、10月5日～7日での開催となりました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施予定団体の担当者、登録アーティスト、専門家であるコーディネーターを繋ぐ研修会をオンラインで開催することに決定。初めての試みとして、Zoomによる研修会を実施しました(右頁プログラム参照)。

研修会に参加したのは、令和3年度事業実施予定の茅ヶ崎市民文化会館、堺市文化振興財団、あすとホール、白河文化交流館コミネス、宮古市民文化会館、荘銀タクト鶴岡、酒田市民会館希望ホール、野々市市情報交流館カメラ、アイム・ユニバース てだこホールの担当者9名、コーディネーター7名、登録アーティスト7名と、地域創造の事務局スタッフで

す。5日は事業説明、6日は横浜赤レンガ倉庫1号館で行ったアーティストによるプレゼンテーションに加え、コーディネーターも交えた質疑、7日は企画ワークショップを実施。6日のプレゼンテーションでは、通常25分のパフォーマンスをひとり10分に短縮。それぞれのアーティストがZoom配信を意識したプログラムを展開しました。

予め収録した映像(赤レンガ倉庫周辺からホールまで踊りながら移動)とZoomでナビゲートしながら行うワークを組み合わせた中村蓉さん、小道具のイスをさまざまなものに見立てて物語性のあるダンスを披露した藤田善宏さん、ひっそりとあきらめて居るひとりの女の夏の姿を語りと併せて表現した康本雅子さん、福祉施設などでも行っている誰もが参加できる椅子に座ったままの踊り「Shall we sit down?」を紹介したマニシアさん、舞踏家が顔を白く塗る化粧の過程をナマで見せながら“白塗り”という仮面をつけることによって逆に隠された自分が発現する舞踏について実演解説した田村一行さん、ジャズダンスに始まりさま

▼— 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

さまざまな踊り遍歴を経て今があるというコジれた人生をひとりパフォーマンスにして見せた長井江里奈さん、リモートでも可能なアイパッドワーク(iPadで指示するように人を動かす)で参加団体からのナビゲートで踊った北尾亘さんと、いずれもダンサーの個性が窺える濃い内容でした。

リモートでの短いパフォーマンスを補完するため、プレゼンテーション終了後、コーディネーターも加わり、チャットで参加団体からの質問を受け付ける2時間の質疑が行われました。新型コロナウイルス感染症の先行きが不透明なこともあり、オンラインでの可能性について多くの質問が寄せられました。

「アイパッドワークは対面でやるワークだったが、オンラインでやるとTikTokで踊る感覚に近くて逆に自分の身体に向き合いやすいのではないかと思っている。踊り手一人ひとりに照明のサスペンションライトを当てて、そこから出なければソーシャルディスタンスが保てるという作品もつくった」(北尾)、「インスタライブでワークショップをやった。指示を出し続けるこちらの手応えのない感じに対して、踊っている方は誰にも見られないから集中して踊っていたようだ」(長井)、「Zoomであろうが何であろうが、踊りで伝えたいことには変わりはない」(田村)、「触りながらワークをするのが恋しくてたまらない。一方、オンラインだと外に出ることができない難病の子どもと親と一緒にワークができる良さもある」(マニシア)、「リモートだと北海道から九州まで来てもらえるので視聴者同士の思わぬ繋がりが生まれた。部屋に数人ずつ分けてリモートでワークしたり、対面するが触れないワークなども試している」(藤田)など、回答にも人柄が表れていました。

このほか、7日の企画ワークショップに向けて、各館の担当者からは企業とのワークショップ経験、コラボレーション経験、ホール以外でのパフォーマンス経験などの質問が寄せられました。

ホール以外でのパフォーマンスについては、中村さんが「協力者は必要だがどこでも踊れ

る」と口火を切り、「同じ作品を廃墟、砂浜、廃校で踊ったことがあるが、床の違いでダンサーたちの踊りが変わり面白かった」(康本)、「下見の時にその地域の特徴あるロケーションで宣材用の写真を撮影している。どこでやろうと移動することに必然性をつくり出すということ」(田村)、「いろいろな場所でたくさんやってきたが、いずれにしてもどういう目的でやるのかが大切」(長井)、「博多と釜山の港のターミナルでそれぞれの市民50人ずつが踊る作品をつくったこともある」(マニシア)と、アーティストの経験の豊富さに驚かされる回答が続きました。

また、「自分の身体を知り、他者を思いやることに繋がる身体のコミュニケーションから考えるきっかけになれば」という康本さんが行っている子どもたちを対象にした「性教育のワークショップ」についても高い関心が寄せられていました。

リモートでの研修という初めての取り組みでしたが、逆に質疑が活発になるところもあり、今後に生かされるプログラムになったのではないのでしょうか。

●令和2(2020)年度ダン活実施団体(主会場/アーティスト/日程)

※10月上旬現在

◎Bプログラム

福岡県宗像市(宗像ユリックス/長井江里奈/2020年10月10日~11日、12月14日~20日)、岩手県宮古市(宮古市民文化会館/北尾亘/12月18日~20日、2021年2月24日~3月1日)、愛知県小牧市(小牧市市民会館/康本雅子/2月11日~14日、2月23日~27日)、沖縄県浦添市(アイム・ユニバース てだこホール/マニシア/2月11日~14日、3月4日~8日)、山形県鶴岡市(荘銀タクト鶴岡/中村蓉/3月5日~7日、3月24日~29日)

◎Cプログラム

広島県三次市(三次市民ホール きりり/北尾亘/2020年11月19日~22日)、熊本県長洲町(ながす未来館/田村一行/11月19日~22日)、神戸市(神戸アートビレッジセンター/長井江里奈/2021年1月14日~17日)、福島県白河市(白河文化交流館コミネス/康本雅子/1月28日~31日)、高知県土佐清水市(土佐清水市立市民文化会館くろしおホール/田村一行/3月19日~22日)

●令和3年度「公共ホール現代ダンス活性化事業」全体研修会(オンライン)プログラム

| 10月5日(月) | |
|---------------------------|--|
| セッション① 事業概要説明 | 参加者の自己紹介と、研修会スケジュール・留意事項、事業の主旨と概要について説明。 |
| 10月6日(火) | |
| セッション② アーティストプレゼンテーション | 2020・2021年度登録アーティストアーティストが10分間ずつプレゼンテーションを実施。 ●中村蓉 ●藤田善宏 ●康本雅子 ●マニシア ●田村一行 ●長井江里奈 ●北尾亘 |
| セッション③ フィードバック | コーディネーターとアーティストを交えて、プレゼンテーションで寄せられた質問への回答などを行う。 [進行]中富勝裕(ダン活コーディネーター) |
| 10月7日(水) | |
| セッション④ プログラム別ディスカッション | 各プログラム別に分かれディスカッション。withコロナにおける各ホール運営等の状況も共有しながら、事業の目的や考え方などをコーディネーターからアドバイスを受け整理していく。 [進行]小岩秀太郎(ダン活コーディネーター) |
| セッション⑤ ディスカッションの共有 | セッション④の内容を全体で共有。 [進行]宮久保真紀(ダン活コーディネーター) |

財団からのお知らせ

●令和3(2021)年度「地域創造セミナー事業」実施団体募集

都道府県が主催する地方公共団体職員および公立文化施設職員等を対象とした研修会に対し、地域創造が講師を派遣する「地域創造セミナー事業」の実施団体の募集を開始します。

本事業が対象としている研修会は、文化・芸術の振興による創造性豊かな地域づくりを内容とするもののほか、都道府県下における芸術文化団体の相互連携や、芸術文化団体と他の領域の団体のネットワーク構築など広域的な連携強化を目的とする内容のものとしています。講演会のテーマや内容は、申請する都道府県の課題や今後取り組みたい施策など

を基に決定し、そのテーマや内容を基に地域創造が講師を選定して派遣します。研修会は、講師による講演のほか、テーマや要望に応じて講師によるワークショップを実施します。また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を踏まえ、内容によりオンライン開催も可能としています。

地域課題の芸術文化の視点での検討や、地方公共団体をはじめ多様な主体の連携による広域的な芸術文化を活用した新たな施策等の検討など、これからの地域と芸術文化を考える上で有益な話を、有識者や先駆者から得ることのできる絶好の機会となりますので、ぜひ活用ください。

募集締切：2020年11月25日(水) 必着

●「特別寄稿 ビューポイント viewpoint」がスタートしました

地域創造ホームページ限定で、有識者やキーパーソンから文化芸術および公立文化施設等におけるチャレンジングな取り組みを寄稿していただくコーナー「特別寄稿 ビューポイント viewpoint」がスタートしました。

第1回(9月17日更新)は、アートディレクターの北川フラム氏(アートフロントギャラリー主宰、地域創造顧問)から、新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度開催予定だった「房総里山芸術祭いちばらアート×ミックス」(千葉県市原市、

「北アルプス国際芸術祭」(長野県大町市)、「奥能登国際芸術祭」(石川県珠洲市)の3つの国際芸術祭の延期、それを受けて立ち上げたインスタグラムを使ったプロジェクト「Artists' Breath」などについてご紹介いただきました。

<https://www.jafra.or.jp/library/other/column01.html>



次回は11月掲載を予定しています。今後どうぞご期待ください。

●「地域文化資産ポータル」リニューアルのお知らせ



ました。

今後とも、このポータルサイトに多くの皆様が集い、地域伝統芸能等を生かした地域づくりにご活用いただければと考えています。

なお、トップページのアドレス(<https://bunkashisan.ne.jp/>)は変更ありませんが、個別のページは新しいアドレスになっておりますので、ブックマークに登録している場合はリニューアル後のページで再度ご登録をお願いします。

また、当財団の「映像記録保存事業」において作成された映像を、随時追加していきます。映像の掲載をご希望の場合は、当該事業の活用をご検討いただきますようお願いいたします。映像記録保存事業の詳細は、地域創造ホームページをご覧ください。

北海道から沖縄まで各地方公共団体が保有する地域伝統芸能等の映像をインターネット上で公開するサイトの「地域文化資産ポータル」をリニューアルしました。YouTubeを活用した映像コンテンツの幅広い発信により、国内外からパソコンやスマートフォンで気軽にご覧いただけるようになり

●「地域創造セミナー事業」実施要項・申込書は、当財団ホームページ内からダウンロードできます。

<https://www.jafra.or.jp/project/training/7365.html>

○問い合わせ

芸術環境部 崎山・児島
Tel. 03-5573-4066

●「特別寄稿ビューポイント viewpoint」に関する問い合わせ

芸術環境部 吉川
Tel. 03-5573-4066

●「地域文化資産ポータル」に関する問い合わせ

総務部 山本
Tel. 03-5573-4056

●令和3(2021)・4(2022)年度「美術館出前(オーダーメイド)型ゼミ」開催地募集のお知らせ

地域創造では「実践的な公立美術館運営能力の向上」ならびに「公立美術館の相互交流」を図るための出前型の研修事業を行っています。この研修事業では、地域の課題意識

に沿ったカリキュラム編成を行い、地域創造の負担で講師を美術館へ派遣します。

本研修事業を令和3・4年度に地域創造と一緒に行う公立美術館を募集します。皆様のご応募をお待ちしております。

募集締切:2021年1月29日(金)必着

●対象となる公立美術館等

次の①の公立美術館が、②のいずれかの形態で参加することを要件とします。

①A 地方公共団体が設置し、以下の団体が管理運営する公立美術館

- 地方公共団体
- 地方自治法第244条の2第3項の規定に基づき指定管理者として指定を受け、公の施設の管理を行う法人その他の団体

B 地方独立行政法人が設置し、管理運営する公立美術館

②参加する美術館の形態

- 都道府県単位の複数の公立美術館
- 都道府県内外のまとまった地域の複数の公立美術館

●対象となる職員

公立美術館の学芸員、一般事務職員、当該公立美術館を設置する地方公共団体の行政部局の職員等

●申請者

- 都道府県単位の公立美術館の研修事業の場合は、当該都道府県立美術館
- 都道府県内外のまとまった地域における研修

事業の場合は、地域の中核的な公立美術館

●事業内容(原則)

【開催地】

申請をする公立美術館(以下、「申請美術館」)

【参加者数】

研修内容に則した参加者数を設定する。原則として20名以上の参加者により行う。

【開催回数・開催時間等】

令和3・4年度の2年間について、内容の異なる半日程度の研修事業を、申請美術館の希望する日程において、複数回行います。

(例:有識者による講義、事例紹介、グループディスカッション、実践的なワークショップ等)

申請書類等を参考に、公立美術館の課題意識に沿って、申請美術館と地域創造が共同してオーダーメイド型で策定します。

●申請美術館としての業務

各研修のテーマ設定、参加者募集にかかる事務、参加者名簿の作成、司会や受付などの人員確保を含む会場の設営、配布資料の印刷などの業務(なお、参加職員の旅費は派遣した公立美術館が負担)。

●新型コロナウイルス感染症に係る支援策情報提供のお願い

地域創造では、新型コロナウイルス感染症により影響を受ける地域の文化・芸術活動に対して支援を行う施策に関する情報収集・発信に力を入れて取り組んでおり、地域創造レターや当財団ホームページにてお知らせしてきました。6月からは当財団ホームページに「新型コロナウイルス感染症に係る支援策情報提供フォーム(<https://www.jafra.or.jp/event-request/05/>)」を設置し、積極的な情報

収集・発信に努めています。

各地方公共団体等の皆様におかれましては、新たに整備された支援策等の情報提供にご協力くださいますよう改めてお願いいたします(お寄せいただいた情報は、当財団ホームページ内の「新型コロナウイルス感染症関連情報(<https://www.jafra.or.jp/docs/6836.html>)」へ掲載します)。

●美術館出前(オーダーメイド)型ゼミ

◎申請方法

当財団ホームページの「美術館出前(オーダーメイド)型ゼミ」より、申請書をダウンロードし、必要事項を記入の上、お申し込みください。

<https://www.jafra.or.jp/project/visual-art/05.html#boshu>

◎研修項目例

- 文化政策のこれまでの流れと今後の方向
- 公立美術館のミッション策定のあり方
- 地域連携・地域に親しまれる企画のあり方
- 効果的なプロモーション(広報)
- マーケティング・創客
- 美術館と観光・インバウンド
- 公立美術館同士または民間施設との連携
- 公立美術館と他の行政分野との連携
- 美術館経営のPDCAサイクル
- 公立美術館の評価システムの具体例
- 公立美術館のショップ・レストランの具体例
- 公立美術館の組織や人を動かす手法
- その他、申請美術館が必要とする、公立美術館運営能力の向上に資するもの

◎問い合わせ

総務部 三田・山本
Tel. 03-5573-4184

●新型コロナウイルス感染症に係る支援策情報提供に関する問い合わせ
芸術環境部 児島・崎山・吉川
Tel. 03-5573-4183

地域通信

●地域通信欄掲載情報について

新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントが中止となる場合や、開催内容・日程等が一部変更となる場合がございます。最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック

[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川

[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知

[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知

[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先

ファックス、電話、e-mailをお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 崎山・児島

●2021年1月号情報締切

11月30日(月)

●2021年1月号掲載対象情報

2021年1月～3月に開催もしくは募集されるもの

北海道・東北

●札幌市

本郷新記念札幌彫刻美術館
〒064-0954 札幌市中央区宮の森4条12丁目
Tel. 011-642-5709 山田のぞみ
<http://hongoshin-smos.jp/index.html>

没後40年記念 本郷新・全部展

札幌生まれの彫刻家・本郷新の没後40年を記念し、所蔵する全作品を展示し、知られざるさまざまな面に迫るシリーズ展を数年にわたり展開する。全部展①では、素描や油彩、版画作品から、本郷が平面作品に向けた情熱を紹介。なお、隣接の記念館では、全部展②として、若かりし頃のブロンズ彫刻を中心に、本郷芸術の揺籃期に焦点を当てるほか、同形の作品が複数存在するという彫刻ならではの「複数性」を考える。

[日程] 10月3日～12月6日

[会場] 本郷新記念札幌彫刻美術館



《哭》(1959年/石膏/本郷新記念札幌彫刻美術館蔵)

●岩手県盛岡市

盛岡市文化振興事業団
〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通2-9-1

Tel. 019-621-5100 田口誠
<https://www.mfca.jp/shiminbunka/>

N響メンバーによる室内楽 ～シューマン&クライスラー ロマン派2大巨匠の名作～

NHK交響楽団第1コンサートマスター 篠崎史紀(ヴァイオリン)をはじめとするN響精鋭メン

バーによる室内楽のコンサート。シューマンとクライスラーのロマン派2大巨匠の名作から、弦楽四重奏曲やピアノ五重奏曲など、豊かな室内楽の醍醐味を軽妙なトークとともにお届けする。コンサート翌日には市内玉山地域の中学生のための鑑賞会も同メンバーで行う。

[日程] 11月25日

[会場] 盛岡市民文化ホール

●福島県白河市

福島県立美術館
〒960-8003 福島市森合字西養山1

Tel. 024-531-5511 坂本・宮武
<https://art-museum.fcs.ed.jp/>

福島県立美術館の名画たち— 関根正二と洋画・日本画の名品—

改修工事に伴って休館中の福島県立美術館が、白河市の小峰城歴史館で行う移動展。県出身・ゆかりの日本近現代美術の収蔵作品を紹介するほか、白河市生まれの大正期を代表する洋画家・関根正二の作品を中心に、彼と同時代を生きた画家たちによる洋画、近世から近代にかけての日本画も併せて展示する。

[日程] 9月12日～11月8日

[会場] 小峰城歴史館



関根正二《姉弟》(1918年/福島県立美術館蔵)

関東

●茨城県水戸市

茨城県近代美術館

〒310-0851 水戸市千波町東久保666-1

Tel. 029-243-5111 仲田敦子
<http://www.modernart.museum.ibk.ed.jp/>

6つの個展 2020

茨城にゆかりがあり、それぞれのジャンルで注目すべき活動を続けている40歳代から80歳代までのさまざまな世代の作家6名を選定し、個展形式で紹介する展覧会。彫刻やテキスタイル、油彩画、日本画、ガラス、陶など、手を介して「物」としての作品を制作する作家たちがどのように世界をとらえ、それをどのように形ある「物」に昇華しているのかを紹介する。

[日程] 11月3日～12月20日

[会場] 茨城県近代美術館

●埼玉県

埼玉県文化振興課

〒330-9301 さいたま市浦和区高砂3-15-1

Tel. 048-830-2879 長谷川拓
<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0305/borakon.html>

「おうちでコンサートちゃんねる」

外出が困難な入院・入所者に音楽を楽しんでいただけるよう病院や福祉施設に演奏家らが出張し、コンサートを開催する「アーティストボランティアコンサート」。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため出演するアーティストも活動が制限されていることもあり、アーティストボランティアの活動を紹介するYouTubeチャンネル「おうちでコンサートちゃんねる」を開設し、演奏動画を公開している。

[URL] https://www.youtube.com/channel/UCtNY_ErRANOapmE0yvI2LDQ

●埼玉県所沢市

所沢市市民部文化芸術振興課
〒359-8501 所沢市並木1-1-1

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

Tel. 04-2998-9211 安蔵恭兵
<http://www.city.tokorozawa.saitama.jp/iitokoro/event/area/namiki/toko-past-and-present-in-art.html>

市制施行70周年記念事業 「ところざわ アートの潮流」

市所蔵作品や資料を交え、山路真護ら画家たちの戦前・戦後の活動や、所沢航空記念公園での野外美術展、90年代の野外彫刻展など、所沢市でのアートの変遷を振り返る初の試み。市内にアトリエを構えるなど所沢に縁のあるアーティスト22名(組)による彫刻や絵画、立体作品などが、屋外および屋内のスペースで展示され、それぞれの魅力を身近に感じることができる。

[日程] 屋外(情報市場ほか) : 11月15日~12月6日/屋内(ザ・スクエア) : 11月27日~12月6日
[会場] 所沢市民文化センター・ミュージズ



山路真護(巴里)(1946年)

●埼玉県東松山市

東松山市民文化センター
〒355-0024 東松山市六軒町5-2

Tel. 0493-24-2011 鈴木和幸
<https://theater.pac.or.jp/>

~Save The Arts from東松山市民文化センター~こどもたちの文化祭

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、活動の自粛・コンクール等の中止を余儀なくされた東松山市内の中学校、高校の文化系部活動を公式YouTubeチャンネルにより映像配信を行う。吹奏楽部や軽音楽部、演劇

部などの演奏・活動を映像で楽しむことができる。

[公開期間] 9月1日~12月28日
[URL] https://www.youtube.com/channel/UCDWbPQ9_24hq2n3lqKf9yDw

●千葉市

千葉市美術館
〒260-0013 千葉市中央区中央3-10-8

Tel. 043-221-2311 森啓輔
<https://www.ccma-net.jp/>

宮島達男 クロニクル 1995—2020

開館25周年を記念し、LED(発光ダイオード)のデジタル・カウンターを使用した制作で活躍する宮島達男の大規模な個展を開催。「クロニクル(年代記)」をテーマとして、本館が開館した1995年から2020年までの四半世紀にわたる宮島作品の展開を、LED作品やパフォーマンス映像、プロジェクトといったさまざまなバリエーションの作品を通して追っていく内容となっている。

[日程] 9月19日~12月13日
[会場] 千葉市美術館

●東京都世田谷区

せたがや文化財団 生活工房
〒154-0004 世田谷区太子堂4-1-1 キャロットタワー内
Tel. 03-5432-1543 佐藤史治
<https://www.setagaya-ldc.net/>

展覧会「未来に伝えるせたがや今ばなし」

世田谷区とせたがや文化財団が主催する「世田谷区芸術アワード“飛翔”」生活デザイン部門を昨年受賞したアートコレクティブ「あの海は山のように」(主宰: 椎木彩子)による展覧会。今年4月から椎木がメールと手紙を通してテレ(=遠隔)ワークショップを実施し、それをもとに世田谷を舞台とした現代の

“民話”を創作。会期中には、椎木による紙芝居の公開制作も行われる予定。

[日程] 10月24日~11月22日
[会場] 生活工房ギャラリー

●東京都調布市

調布市文化・コミュニティ振興財団
〒182-0026 調布市小島町2-47-1

Tel. 042-481-7611 白勢綾子
<https://www.chofu-culture-community.org/forms/top/top.aspx>

調布能楽odyssey 急 新作能『月魄—深大寺蕎麦の能—』

市内にある深大寺と縁の深い能楽を紹介する3カ年プロジェクト「調布能楽odyssey」。「序」「破」「急」と3年にわたって展開してきたプロジェクトの最終年は、1300年の歴史がある深大寺から着想を得て書き下ろされ、豊かな自然と歴史をもつ調布を描き出す完全オリジナル能『月魄』を上演する。オンラインでライブ配信も行われる。

[日程] 11月23日
[会場] 調布市文化会館たづくり

●東京都府中市

府中市美術館
〒183-0001 府中市浅間町1-3
Tel. 042-336-4856 志賀秀孝
<https://www.city.fuchu.tokyo.jp/art/>

日本の美術を貫く 炎の筆《線》

美術鑑賞の一番の醍醐味が画中の「線」を楽しむことであると考え、約130点の土器や刀、禅画、日本画など、さまざまな分野の「線」を展示する展覧会。画家をはじめとするアーティストたちが渾身の努力を傾け表現したさまざまな「線」から、過去の、あるいは見知らぬアーティストたちの「パワー」を五感で感じることができる。

[日程] 9月19日~11月23日
[会場] 府中市美術館

●横浜市

横浜市芸術文化振興財団
〒220-0012 横浜市西区みなとみらい2-3-6

Tel. 045-682-2000 新野見佳奈
<https://mmh.yafjp.org/mmh/index.php>

BTVN2020 ピリオド楽器オーケストラ第九演奏会

ベートーヴェンが活躍していた当時の楽器であるピリオド楽器(=古楽器)による第九コンサート。古楽器界で活躍する若きピリオド楽器奏者や主要オーケストラに所属しながらもこのジャンルに取り組み演奏家たちが横浜に集結し、作曲当時の音での第九を再現する。2018年の第1回ショパン国際ピリオド楽器コンクール第2位受賞で反響を巻き起こしたフォルテピアノ奏者の川口成彦をソリストに迎え、ピアノ協奏曲を加えたプログラムを披露する。

[日程] 11月10日
[会場] 横浜みなとみらいホール

●神奈川県鎌倉市

鎌倉市芸術文化振興財団
〒248-0005 鎌倉市雪ノ下1-5-25

Tel. 0467-23-6405 小林美香
<http://www.kamakura-arts.or.jp/kaburaki/>

三遊亭圓朝没後120年 あやし、うはし—清方と圓朝—

近代日本画家の巨匠・鏑木清方と、名落語家・三遊亭圓朝の交流にスポットを当てた展覧会。清方は父の友人であった圓朝を幼い頃から慕い、挿絵画家の道へと後押ししてくれた恩人でもあった。圓朝没後120年にあたり、圓朝像の下絵をはじめ、清方が圓朝の取材旅行に随行した際に綴った日記や圓朝が蒐集した幽霊画など、多彩な作品で清方と圓朝の関わりを紹介する。

[日程] 10月24日~11月29日
[会場] 鎌倉市鏑木清方記念美術館

北陸・中部

●新潟県長岡市

長岡市栃尾美術館

〒940-0237 長岡市上の原町1-13

Tel. 0258-53-6300 佐藤美紀

https://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp/?page_id=135

開館25年のあゆみ展(後期)

旧栃尾市の市政40周年を記念して開館した美術館の開館25周年のあゆみを、旧栃尾市時代を前期、長岡市合併後を後期に分けて紹介する。洋画や日本画、彫刻など約60点の作品と関連資料から、これまでの企画展や館所蔵品展を振り返る。また、特別企画として、「栃尾の手織物と絹文化」をコーナー展示で同時開催。

[日程]10月6日～11月23日

[会場]長岡市栃尾美術館

●富山県富山市

富山県美術館

〒930-0806 富山市木場町3-20

Tel. 076-431-2711 遠藤亮平

<https://tad-toyama.jp/>

TADのベスト版 コレクション+(プラス)―あなたならどう見る?―

富山県美術館を代表する収蔵作品を過去最大規模で紹介する展覧会。アーティストの開発好明、アートテラーのとに〜、美術批評家の林道郎、作家の山内マリコの4名が独自の視点で作品の新たな見方や魅力をお届けする。またパブロ・ピカソの当館蔵の作品、絵画4点と版画作品3点の全点を同時展示する。

[日程]9月19日～11月3日

[会場]富山県美術館

●石川県金沢市

金沢21世紀美術館

〒920-8509 金沢市広坂1-2-1

Tel. 076-220-2800 立花由美子

<https://www.kanazawa21.jp/>

私たちの、私たちによる、私たちのための美術館

地域に住む方や来場者の声を、インタビューや「ミュゼミ」と呼ばれる金沢市民を対象に行うゼミを通して、これまでの美術館・これからの美術館について考える参加型の展覧会。「まちに活き、市民とつくる、参画交流型の美術館」を特徴のひとつとして、2019年に開館15周年迎えた金沢21世紀美術館が今改めて、「私たちの美術館」を「私たち」が考えるための機会として実施する。

[日程]7月18日～2021年3月21日

[会場]金沢21世紀美術館

●福井県福井市

福井県文化振興事業団

〒918-8152 福井市今市町40-1-1

Tel. 0776-38-8288 山口透磨

<https://www.hhf.jp/>

若い芽コンサート2020

音楽を学ぶ福井の中学生・高校生を対象とした公開オーディションで選ばれた出演者が、ソロ演奏、プロの弦楽四重奏との共演を披露する若手育成プログラム。鈴木仁子(ピアノ)、張田早希(ヴィオラ)、森田堅人(トロンボーン)の3名が、若い才能を花開かせる。

[日程]11月5日

[会場]ハーモニーホールふくい

●名古屋市

やっとかめ文化祭実行委員会

〒460-0011 名古屋市中区大須3-42-30 ALA大須ビル201号(NPO法人大ナゴヤ・ユニバーシティ・ネットワーク内)

Tel. 052-262-2580 大野嵩明

<https://yattokame.jp/2020/>

やっとかめ文化祭 2020

名古屋に根付く伝統や文化をすくい取り、伝統芸能の公演や道端に眠る歴史や文化に出会うま

ち歩きなど、まちを舞台に多彩なプログラムを展開する文化祭。8年目を迎える今回は、さまざまな困難に直面するなか芸能や文化を守り抜いてきた先人たちに思いを巡らせ、現地で芸能や文化と出会う機会はそのままに、オンライン配信も取り入れ、広くまちの魅力を再発見するきっかけを届ける。

[日程]10月24日～11月15日

[会場]名古屋市内一円

近畿

●三重県亀山市

亀山市地域社会振興会

〒519-0124 亀山市東御幸町63

Tel. 0595-82-7111 岩間晶子

<http://kameyama-bunkakaikan.com/>

市民参加型 亀山ミュージカル

2014年から2年に一度開催してきた市民参加型ミュージカル公演。今回は、市内の鈴鹿峠に由来する鈴鹿御前をテーマにした市民脚本公演『鈴鹿御前～ふたつの心～』と、最古の歴史書「日本書紀」の中に綴られた亀山市の今と昔を題材にした、市の文化大使・小嶋希恵脚本作品『～日本書紀 編纂1300年～亀山・今・昔・物語』の2本立てで上演。市民や亀山市葛葉太鼓保存会のほか、小嶋の作品にはプロの舞台俳優が出演し、市民と共に本格的なミュージカルを創作する。

[日程]11月15日

[会場]亀山市文化会館

●滋賀県近江八幡市

安土町文芸の郷振興事業団

〒521-1321 近江八幡市安土町桑実寺777

Tel. 0748-46-6507 井田知美

<http://bungei.or.jp/>

TRIO CONCERT～SOUND's MAP～

文芸セミナーヨ専属オルガニスト

である城奈緒美が、ヴァイオリニストの中村俊俊とフルーティストの今井亨を迎え、「個」の魅力、「アンサンブル」の魅力をつぶりとお届けするコンサート。ベートーヴェン生誕250年にちなみ、ベートーヴェンと関連のある作曲家や楽曲を披露する。

[日程]11月22日

[会場]安土文芸セミナーヨ

●京都市

京都府立堂本印象美術館

〒603-8355 京都市北区平野上柳町26-3

Tel. 075-463-0007 森麻紀子

<https://insho-domoto.com/>

特別企画展 小野竹喬・春男―父と息子の切ない物語―

日々の自然を穏やかに見つめ、明るく澄んだ色彩によって情緒豊かな風景を描いた小野竹喬と、父と同じ日本画家を目指しながらも太平洋戦争により志半ばにして戦死した息子の小野春男。彼らが共に過ごした衣笠の地で、描写を通じた父子の交流を紹介する。竹喬作品を中心に、2015年に初公開された春男の素描やスケッチの数々を併せて紹介する京都初の展覧会となる。

[日程]10月6日～11月23日

[会場]京都府立堂本印象美術館

●大阪市

大阪府立江之子島文化芸術創造センター

〒550-0006 大阪市西区江之子島2-1-34

Tel. 06-6441-8050 河崎由香子

<http://www.enokojima-art.jp/>

大阪府20世紀美術コレクション 岩宮武二のまなざし

写真家として数多くの作品を残した岩宮武二の生誕100年を記念したコレクション展。「まなざし」をキーワードに、大阪府が所蔵する約700点の作品の中から

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

ら、代表作である写真集『佐渡』を中心に、初期の作品、アルフォートやシルクスクリーンなどの実験的な作品、また同時代の人々と岩宮との関係性が垣間見られる作品や資料を展示する。

[日程] 11月7日～27日

[会場] 大阪府立江之子島文化芸術創造センター



岩宮武二《たそがれ(相川町)》(1954～1961年)

●大阪府吹田市

吹田市文化振興事業団

〒564-0041 吹田市泉町2-29-1

Tel. 06-6386-6333 宮本理絵

<http://www.maytheater.jp/>

吹田市制施行80周年・第182回吹田市民劇場・メイシアター開館35周年記念 祝賀能

市民生活の向上を目的に、幅広いジャンルの中から優れた作品を低価格で提供する「吹田市民劇場」。今回は大槻文蔵、吹田在住の三島元太郎、吹田出身の大倉源次郎といった3名の人間国宝が参加する能『安達原』を上演する。

[日程] 11月8日

[会場] メイシアター

●兵庫県伊丹市

いたみ文化・スポーツ財団

〒664-0846 伊丹市伊丹2-4-1

Tel. 072-782-2000 木原里佳

<http://www.aihall.com/>

AI・HALLリーディング

『郷愁の丘ロマンピア』

いま注目すべき旬の作家や話題の作品を、ドラマ・リーディング形式で紹介するシリーズ。初年度となる今回は、劇作家・山田百次による、岸田國士戯曲賞最

終候補作を関西の俳優陣と共に上演する。舞台は、かつて炭鉱の街として栄え、現在はダム建設により沈んだ地方都市。炭鉱夫として生き抜いてきた老人たちの人生を回想しながら、街の過去と現在を丁寧に描く。

[日程] 11月22日

[会場] アイホール

●神戸市

横尾忠則現代美術館

〒657-0837 神戸市灘区原田通3-8-30

Tel. 078-855-5607 山本淳夫

<http://www.ytmoca.jp/>

横尾忠則の緊急事態宣言

コロナ禍が起こるはるか以前から、虚実が交錯するかのような緊迫した状況を繰り返し描いてきた横尾忠則の表現に注目した展覧会。《ライオンと緑の月》(1996年)、《その後の天国と地獄》(2009年)などを展示する。また、横尾がウェブ上で展開しているさまざまなビジュアルにマスクや口腔のイメージをカラーージュする作品《With Corona》を展示空間各所に散りばめるようにインスタレーションする。

[日程] 9月19日～12月20日

[会場] 横尾忠則現代美術館

●和歌山県和歌山市

和歌山県立近代美術館

〒640-8137 和歌山市吹上1-4-14

Tel. 073-436-8690 奥村一郎

<http://www.momaw.jp/>

開館50周年記念

和歌山県立近代美術館

コレクションの50年

半世紀にわたる活動のなかで、約1万3,000点の作品を収蔵するまでになった当館のコレクションの歩みを、選りすぐりの作品を通してたどる展覧会。建物の歴史に応じて3つの章に分かれており、前身の和歌山県立美術

館から現在に至るまで、郷土の美術家から日本、世界へとコレクションの幅を広げ、版画という専門分野の開拓から和歌山版画ビエンナーレ展まで発展してきた軌跡を振り返る。

[日程] 9月19日～12月20日

[会場] 和歌山県立近代美術館

中国・四国

●鳥取県倉吉市

鳥取県文化振興財団

〒680-0017 鳥取市尚徳町101-5 (とりぎん文化会館内)

Tel. 0857-21-8707 野田景子

<http://site.torikenmin.jp/>

とっとりチェンバーオーケストラ 弦楽アンサンブルコンサート

2016年のプロデュース公演をきっかけに、鳥取県出身・在住のプロ奏者を中心に結成した室内合奏団「とっとりチェンバーオーケストラ」。4年ぶりの公演となる今回は、指揮・ミュージックアドバイザーに、ヴァイオリニストであり東京藝術大学長の澤和樹を迎え、弦楽の美しい響きが楽しめる名曲を届ける。また事業の一環として、地域のジュニア世代・高校生等との育成・交流プログラムも展開。

[日程] 11月3日

[会場] 倉吉未来中心



「弦楽アンサンブルコンサート」音楽監督：フェリックス・アーヨ(2016年11月/とりぎん文化会館梨花ホール)

●鳥根県益田市

鳥根県立石見美術館

〒698-0022 益田市有明町5-15 鳥根県芸術文化センター「グラントワ」内

Tel. 0856-31-1863 吉岡恵

<http://www.grandtoit.jp/museum/>

北斎 永田コレクション名品展

鳥根県出身の葛飾北斎研究者・永田生慈氏が蒐集した、北斎に関する個人コレクションを展示。氏が集めた総数2,400点近い「永田コレクション」は、2017年度に鳥根県に一括寄贈されたもの。今回はその中から主要な作品約330点を前期・後期に分けて展示し、北斎の生涯と画業を紹介する。開館15周年記念展。

[日程] 9月26日～11月23日

[会場] 鳥根県立石見美術館

●鳥根県松江市

しまね文化振興財団

〒690-0887 松江市殿町158 鳥根県民会館内

Tel. 0852-22-5508 野村晶美

<https://www.shimafes.com/>

しまね伝統芸能祭 クロージング公演

主に鳥根県内で継承されている伝統芸能を公演や映像での発信、現代アーティストとのコラボレーションなどさまざまな形で紹介する伝統芸能祭。9月からオーブニング公演、地域伝統芸能と県外ゲスト団体による交流公演と進めてきた。フィナーレは、伝統芸能の新たな可能性を探るプログラムとして、県内の伝統芸能団体とさまざまなジャンルのアーティストによる創作舞台4作品を上演する。

[日程] 11月22日、23日

[会場] 鳥根県民会館

●愛媛県松山市

愛媛県美術館

〒790-0007 松山市堀之内
Tel. 089-932-0010 五味俊晶

<https://www.ehime-art.jp/>

没後20年 真鍋博2020

真鍋博の没後20年という節目の年に開催される大規模な回顧展。真鍋が大学在籍中に制作した油彩画から、星新一や筒

井康隆などの装幀の原画に至るまで、約800点の作品群を展示する。1964年の東京オリンピックや1970年の大阪万博など、日本の高度経済成長と呼応しつつ新たなデザインを切り開いていった真鍋の画業を、生誕の地で振り返る。

[日程] 10月1日～11月29日
[会場] 愛媛県美術館

九州・沖縄

●北九州市

北九州市芸術文化振興財団
〒803-0812 北九州市小倉北区室町1丁目1-11
Tel. 093-562-2655 一田真澄
<http://q.geki.jp/>

東アジア文化都市2020北九州 「詩、踊る」

日中韓の3カ国で東アジアの多様な文化の国際発信力強化を図る事業「東アジア文化都市」。今年度の開催都市として北九州市・揚州市(中国)・順天市(韓国)が選定され、各地でさまざまな文化芸術イベントが実施される。文学事業の一環として、北九州出身の3名の詩人(高橋睦郎、平出隆、宗左近)の「詩」をベースに、国内外で躍進を続ける3名の振付家(田村一行、鈴木ユキオ、浅井信好)がそれぞれダンス作品を創作する。

[日程] 11月7日
[会場] 北九州芸術劇場

●長崎県長崎市

長崎県美術館
〒850-0862 長崎市出島町2-1
Tel. 095-833-2110 松久保修平
<http://www.nagasaki-museum.jp/>

長崎美術 往来! 長崎県美術館コレクションから

館収蔵品の中から、西洋や中国の文化と日本文化が混ざり合った、独自の文化をもつ長崎ゆかりの美術作品をテーマごとに紹介。「まつり」や「ロマン」、「くら

しと風土」といった5つのテーマで、さまざまな側面をもつ長崎を題材に多くの芸術家たちが描いた作品や、それらに刺激を受けた地元作家たちの作品を通して、長崎の文化的風土をとらえ直す。

[日程] 10月3日～2021年1月3日
[会場] 長崎県美術館

●大分県竹田市

竹田市総合文化ホール
〒878-0024 竹田市玉来1-1
Tel. 0974-63-4837 菊村隆史
<http://www.taketa-city.com/glanz/>

プレ・コロ・フェスタ in たけた

11月に開催を予定していた合唱の祭典「コロ・フェスタ 2020」公演が来年度に延期となったことを受け、プレコンサートを開催。市民が参加する演劇団および子ども合唱団のほか、本公演の特設合唱団が出演し、竹田市出身の童謡作家・佐藤義美の代表曲「いぬのおまわりさん」や新作合唱曲『ともだちシンフォニー』などを披露する。コロナ対策のため座席数を限定して実施され、公開の様子は後日動画で配信される。

[日程] 11月8日
[会場] 竹田市総合文化ホール

●鹿児島県鹿児島市

宝山ホール(鹿児島県文化振興財団)
〒892-0816 鹿児島市山下町5-3

Tel. 099-223-4221 竹下陽子
<https://www.houzanhall.com/>

宝山プレゼンツ ちびっ子集まれ! クラシックっていいな～ファミリーコンサート

「子どもと一緒に音楽を楽しみたい」という要望に応えた、乳幼児から入場できる恒例のコンサート。出演は鹿児島県文化振興財団のアーティストバンク登録アーティストを中心に編成された

宝山室内アンサンブル、歌は福富貴子(ソプラノ)と又吉秀和(バリトン)。『運命』などクラシックの名曲や『おもちゃのチャチャチャ』など、子どもの発達段階を考慮した曲を届ける。

[日程] 11月21日
[会場] 宝山ホール

講座・シンポジウム

多様性を育むダンス&美術プロジェクト—障害のあるアーティストの発掘&育成、ファシリテーター育成、及び発表の場づくり

障害をもつ人々と障害のない人たちがお互いの創造性を触発しながら作品を制作し、その成果として展示会を開催するだけでなく、どのように多様な参加者の表現活動をファシリテートするかといったことを学べるワークショップ。絵画・造形ワークショップでは美術家の西村陽平を、触覚を探索するワークショップ&トークでは渡邊淳司(NTTコミュニケーション科学基礎研究所)と伊藤亜紗(東京工業大学リベラルアーツ研究教育院)を講師に迎え、アートと多様性を学ぶ。

[日程] 絵画ワークショップ: 11月3日、造形ワークショップ: 11月8日、触覚を探索するワークショップ&トーク: 12月12日
※絵画・造形ワークショップは12～2月も開催予定
[会場] ココキタ(北区文化芸術活動拠点)ほか



西村陽平の絵画・造形ワークショップ

[問い合わせ] クリエイティブアート実行委員会

Tel. 03-6426-5182

<http://www.musekk.co.jp/>

大人のための対話型鑑賞ワークショップ

長久手市文化の家が今年度から開始した新講座。対話型鑑賞とは、ニューヨーク近代美術館が育成プログラムとして開発した美術作品の新しい鑑賞方法。対話しながら鑑賞することを通じて、絵画が身近になっていく楽しさを味わうことができる。市内にある名都美術館の協力を得て、講座最終日は美術館内で実物の美術作品を使用した対話型鑑賞を行う。

[日程・会場] 10月31日、11月14日: 長久手市文化の家 / 12月12日: 名都美術館

[問い合わせ] 長久手市文化の家
Tel. 0561-61-3411

https://www.city.nagakute.lg.jp/bunka/ct_bunka_ie.html



対話型鑑賞の様子

クリスマス・新春企画 情報 求 む!

12月号(11月25日発行予定)では「クリスマス・新春企画」を中心にご紹介します。

下記までどしどし情報をお寄せください。

Tel. 03-5573-4066

Fax. 03-5573-4060

letter@jafra.or.jp

締め切り: 10月30日(金)

▼今月の情報(アーツセンター編)

新たにオープンした公立のアーツセンターを紹介します

アーツセンター情報

●岐阜県岐阜市

岐阜県美術館

〒500-8368 岐阜市宇佐4-1-22

Tel. 058-271-1313

<https://kenbi.pref.gifu.lg.jp/>

◎2019年11月3日リニューアルオープン



岐阜県が運営する公立美術館として1982年11月3日に開館。オープンから35年を超え、老朽化した空調、照明などの整備や来館者の動線の変化などに対応するため、2018年11月4日から1年間休館し大改修を行った。今回の改修では、空調設備の更新のほか、ホール中央にコンシェルジュ機能をもつ「ナンヤローネステーション」を新設、展示室の出入り口の増設、自動扉化、照明のLED化など展示環境の整備と、キッズコーナー、授乳室を拡充し、多目的ホールには、憩いの場としてのカフェを備えた。また、実習棟だった場所をアトリエにリニューアルすることでアーティストがより制作しやすい環境をつくるなど、建物の構造は大きく変わっていないが、より美術館を身近に感じられるような工夫が随所に凝らされている。

[オープニング事業]イメージする力、生きる力、ある日の「美術と教育」の出来事展、ETERNAL IDOL展、セカンド・フラッシュ展ほか

[施設概要]展示室(4室2,670㎡)、多目的ホール(324㎡)、講堂(218㎡)ほか

[設置者]岐阜県

[管理・運営者]岐阜県

[設計者](株)日建設計

●徳島県藍住町

藍住町総合文化ホール

〒771-1203 板野郡藍住町奥

野字矢上前32-1

Tel. 088-637-3344

<https://www.town.aizumi.lg.jp/bunka-h/>

◎2019年11月3日オープン



老朽化した町内施設の再整備を行い、町民会館と保健センター、地域包括支援センター、社会福祉協議会などの機能を複合化した施設。文化芸術にふれる機会の創出、世代間・地域間交流を促すほか、災害時の活用、保健福祉との連携を図る。外観は、町名にもある「藍」をモチーフに藍色を基調とし、館内は、ガラス張りの吹き抜けから景色を望める開放的な空間となっている。音響設備にこだわった大ホールは、演奏会等に最適な音響反射板形式と演劇等に適したプロセニウム形式を兼ね備え、本格的な音楽公演のほか、あらゆるジャンルの文化芸術活動に対応できる。また、敷地内の芝生エリア「あいずみ広場(約2,000㎡)」では、お祭りやマルシェなどイベントの開催も可能。

自主公演では、ホールの特性を生かした多ジャンルの事業、町の未来を担う子どもたちの感性を育む事業などを展開する。

[オープニング事業]N響メンバーと仲道郁代による室内楽の午後

[施設概要]大ホール(633席)、小ホール(123.42㎡)、交流室1~3、調理室、和室、スタジオ

[設置・管理・運営者]藍住町

[設計者](株)教育施設研究所

●熊本市

熊本城ホール

〒860-0805 熊本市中央区桜

町3-40

Tel. 096-312-3737

<https://www.kumamoto-jo-hall.jp/>

◎2019年12月1日グランドオープン



「城下町熊本」の伝統と歴史を継承しつつ、賑わいと活気にあふれた街づくりと人・モノ・情報の交流拠点として、また、熊本地震からの復興のシンボルとして開業した大型複合施設「SAKURA MACHI Kumamoto」に併設してオープンした公益施設。

九州最大級のメインホールは音響にも優れ、ホワイエから壁面に至るまで熊本県産の木材が多用された温かみのある空間となっている。

シビックホールは音響施設を備え、コンサートやシンポジウム等、多目的に利用可能。また大小19室の会議室は連結し最大で約1,200㎡の大空間としても活用できる。

復旧中の熊本城や今後整備される花畑地区のオープンスペースとも連携し、九州の文化や学術の発信に繋げる役割を担う。

[オープニング事業]グランドオープンこけら落とし(山下達郎ライブ)ほか

[施設概要]メインホール(約2,300席)、シビックホール(最大750席)、展示ホール(約1,630㎡)、会議室ほか

[設置者]熊本市

[管理・運営者]熊本城ホール運営共同事業体

[設計者]日建設計・太宏設計事務所JV

●データの見方

情報は所在地の北から順に掲載しています。●で表示してあるのはアーツセンターの所在地です。以下名称、住所、電話番号、公式サイトURLを記載しています。また、基礎データとして、設置者、運営者、ホール席数など施設概要を紹介しています。

●情報提供のお願い

地域創造では、地域の芸術環境づくりを積極的に推進するアーツセンター(ホール、美術館などの施設のほか、ソフトの運営主体も含まれます)の情報を収集しています。特に、新規の計画やオープンなどのトピックスについては、この情報欄に掲載していく予定です。このページに掲載を希望する情報がございましたら、情報担当までご連絡ください。

●情報提供先

地域創造レター担当

Fax. 03-5573-4060

Tel. 03-5573-4066

letter@ajfra.or.jp

▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

横浜市

「ヨコハマトリエンナーレ2020」



ニック・ケイヴ《回転する森》2016(2020再制作) ©Nick Cave

●ヨコハマトリエンナーレ2020

「AFTERGLOW—光の破片をつかまえる」

[会期] 2020年7月17日～10月11日

[会場] 横浜美術館、プロット48

[主催] 横浜市、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、NHK、朝日新聞社、横浜トリエンナーレ組織委員会

●YT2020のコロナへの対応

1月17日～19日 ラクス来日

1月29日 長期滞在中の参加作家帰国

2月9日～27日 参加作家来日

2月29日 横浜美術館全館休館

4月7日 国が緊急事態宣言発出

4月16日 YT2020記者会見延期

5月14日 日本博物館協会が博物館における感染拡大予防ガイドラインを策定

5月25日 国が緊急事態宣言解除

6月3日 YT2020開幕2週間延期発表

6月23日 チケット販売開始

7月17日 YT2020開幕

9月19日 催し物の収容率緩和

9月24日 「バーチャルツアー」公開

10月11日 YT2020閉幕

*1 第4回より事業名をヨコハマトリエンナーレに改称。

*2 組織委員会の副委員長を務める逢坂恵理子前横浜美術館館長(現国立新美術館館長)と蔵屋美香現横浜美術館館長をトップとする定例会議。基本的に月1回開催。

●オンラインによる新たな取り組み

約60人のガイドサポーターが「オンラインガイド ココがみどころ!」を実施。希望者を5人以上のグループで募集し、ガイドサポーターがオンライン会議ツールZoomを使用して画像や動画をいながら40分間の展示紹介を行う。国内の他の芸術祭のサポーターや海外からの参加もあり、サポーター同士の交流の場にもなった。また、ホームページでは、オンラインで楽しめる「バーチャルツアー」を展開。展示作品を360度のパノラマビューで鑑賞できるもので、実物を観る経験を補完するものとして無料公開した。あらゆる方々に開かれたトリエンナーレを目指して試行的に実施したのが分身ロボット「OriHime」を用いた鑑賞会。身体的制約などにより外出が難しい方が分身ロボットを通して作品を鑑賞した。

新型コロナウイルス感染症の世界的流行で国際的な人の往来を伴う大規模な国際展が相次いで延期されるなか、「ヨコハマトリエンナーレ2020」が7月17日に開幕。感染症対策のため開幕を2週間遅らせ、日時指定予約チケットにより、30分間ごとの入場人数を70人に制限。78日間の会期を無事終えて10月11日に閉幕した。横浜市が開催を決定するまでの経緯や新たな取り組みについて取材した。

横浜トリエンナーレ^(*1)(以下、YT)は3年に1度開催する現代アートの国際展として2001年にスタート。第4回(2011年)から運営の軸が国際交流基金から横浜市に移り、12年に横浜市芸術文化振興財団が主催団体に参画。以後、同財団が指定管理を務める横浜美術館を主会場として展開。美術館職員と市職員による横浜トリエンナーレ組織委員会事務局を美術館に常設し、毎回選考されるアーティストック・ディレクターと共に実施する体制で運営してきた。

第7回となる今年のアーティストック・ディレクターを務めたのはインド出身の3人組のアーティスト集団ラクス・メディア・コレクティブ(以下、ラクス)。1月17日～19日に展示計画の打ち合わせで来日したのを最後に移動できなくなり、参加作家も展示のための来日が不可能になるなか、リモートでの準備が進められた(この過程は、組織委員会プロジェクトマネージャーの帆足亜紀さんが「ネットTAM」で詳しく発信)。

参加アーティスト67組(アジア圏約半数、欧米約4分の1、中東・アフリカなど約4分の1)は、ラクスが呈示した「独学」「発光」「友情」「ケア」「毒」という5つのキーワードに回答した作品を発表。横浜美術館のエントランスに色彩豊かな

園芸用の飾りで作ったニック・ケイヴの巨大インスタレーション《回転する森》をはじめ、生態系やセクシュアリティ、埋もれた地域史に向き合った作品など、多様で多層な展示となっていた。

YTを所管する横浜市文化観光局文化プログラム推進部文化プログラム推進課担当課長の梶原敦さんは次のように振り返る。

「東日本大震災に見舞われた2011年の第4回展の時も中止・延期をしなかった。その結果、幅広い市民に大勢ご来場いただき、日常にアートがあることの大切さを実感した。この経験が大きく、事務局の管理職が参加する副委員長会議^(*2)の議論も、コロナが収束しなくてもどのように進めるかということに終始した。また、長年にわたる取り組みによって培われた信頼関係があり、今回も市は内容に口を出さないとというスタンスで臨むことができた。組織委員会の名誉会長を務める林文子市長の『新型コロナウイルス感染症はいつか必ず収束する。その時に色々なことが回復できるように準備を進めておく必要がある』というリーダーシップにも後押しされた。YTを開催することで他のイベントも再開しやすくなり、経済が活性化するきっかけになる。緊急事態宣言の解除を受けて6月に組織委員会として開催を決定した。開催発表後に市民の方から寄せられた否定的なご意見は数件のみで、この20年間で多くの市民にYTの存在を知っていただけていることを実感した。

9月19日以降は入場制限を緩和して30分178人まで増員。市の負担金はコロナ前と同額を確保したが、10万枚のチケット販売目標を4万枚に下方修正せざるをえなかったため、広報関連予算を削減するなどして対応した。公金が充てられる催しであり、より市民に開かれたものにするため、当初は1,500人前後の市民サポーターによるインフォメーションや作品ガイド、美術館に来られない人に向けたアウトリーチなども考えてきた。コロナのためリアルでの実施が難しくなりオンラインで何ができるか工夫した。なかでもオンラインガイドには手応えを感じており、続けていければと思っている」(横堀応彦)